

『生産性**向上**支援訓練』を利用した方の**声**

マクセルフロンティア株式会社様 (旧マクセルシステムテック株式会社) (米沢市)



利用コース情報

- ・訓練コース名：
新サービス・商品開発の基本プロセス
- ・訓練期間：令和元年8～9月(2日・12時間)
- ・受講者数：16名
- ・ポイント：ヒット商品の考え方、アイデアの出し方及び自社資産の活用方法を理解し、企画書の作成を行い、サービス、商品づくりの基本プロセスを習得する。

プロフィール

- ・所在地：山形県米沢市
- ・従業員数：217名
- ・設立：平成29年2月
- ・主な業務内容：産業機器向けシステム製品の受託開発・製造及び画像認識システム開発・製造・販売

事業主の声

<取締役 鈴木 重明さま>

弊社は長年受託開発を中心に事業展開を行ってきたため、新規自社製品の立案や新技術を活用した開発案件へのチャレンジ精神が低下しておりました。今回、社内教育訓練の年度計画を策定するに際し、教育講師派遣関連のイントラ検索でポリテクセンターの生産性向上支援訓練事業を知り、すぐに訓練実施に向けての相談・打ち合わせを実施させていただきました。

訓練実施機関の講師も交えての協議の結果、自社の課題及び今後の取り組み方針を踏まえ、カリキュラムを最も効果的な内容にカスタマイズして研修を実施したところ、社外講師による研修はスキルアップだけでなく、意識改革にもつながると分かり、今後もこうした研修を継続したいと考えております。N B推進開発課を新設し取組課題の推進、従業員の意識改革推進を実施しており、これまでネガティブな発言が多かった社員も積極的に取り組む姿勢を見せるなど、次第に効果が表れていると実感しています。



受講者の声

<齋藤 貴裕さま>

私が所属しているN B推進開発課、画像ソフト設計課では新規自社製品の企画立案等を担当していますが、今までは日々の業務に追われて新しいことにチャレンジしたり改善・改革に前向きに取り組む雰囲気にはなっていませんでした。この研修では自社製品を使った実習があり、考え方や分析方法をより身近な感覚で習得できました。また、関連して経営戦略やビジネスモデルの作成、各種分析の重要性を学ぶことができたことで、受講者全員がポジティブな考え方に変わってきました。現在は製品仕様策定や技術提案に、習得した分析スキル・考え方を活用しています。

これからは、市場動向や成長分野を意識してお客様のニーズに合致するような製品の企画・立案、そして製品化の実現に向けて社内全体で推進したいと思っております。



新サービス・商品開発の基本プロセス

概要

ヒット商品の考え方、アイデアの出し方及び自社資産の活用方法を理解し、企画書の作成を行い、サービス、商品づくりの基本プロセスを習得する。

(持参品)：筆記用具

(対象者)：設計部門、営業部門(新事業開発に携わるメンバー)

【日数/時間】 2日間/12時間

【実施時間帯】 10:00~17:00

【定員】 16名

【受講料】 5,400円(税込)

【実施日】 令和元年8~9月

	主な内容
1 日 目	1. 新商品開発の考え方と事例紹介 ・経営に貢献する新商品開発 ・新商品開発の一般的方法論 ・本研修で学ぶ新商品開発のプロセス
	(演習1) 一般的な新商品開発プロセスの利点と欠点を学習し、それを基に自社のプロセスとの違いの洗い出しを行います。
	2. 商品企画とアイデア発想 ・発散段階の進め方と技法(1) 新商品の着想を得る ・発散段階の進め方と技法(2) 着想をコンセプトにまとめる
	(演習2) 発散的アイデア発想法を基に新商品の着想を考えます。発散させたアイデアを収束するための整理を行い、企画書の作成に向けた準備を行います。
2 日 目	3. 企画書とマーケティング戦略 ・収束段階の進め方と技法(1) 商品企画書にまとめる ・収束段階の進め方と技法(2) 新商品上司のためのマーケティング戦略を理解する ・収束段階の進め方と技法(3) 新商品企画書を完成する
	(演習3) 参加者一人ひとりが、新商品(あるいは新サービス)のラフな企画書の作成を目指します。完成度には個人差が出ますが、実際に自分で手を動かしながら考えることで、一連の知識や考え方の理解を深めます。

お申込み・お問い合わせ



独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構山形支部 山形県職業能力開発促進センター

ポリテクセンター山形 生産性向上人材育成支援センター

〒990-2161 山形市漆山1954

TEL : 023-686-2008 FAX : 023-686-2808